

第3回策定会議及び市議会における意見への対応について

(: 第3回策定会議における意見、 : 市議会常任委員会における意見)

1. (仮)中小企業サポートセンターについて

ご意見等	対応案
(仮)中小企業サポートセンターが機能するかどうかが重要、職員が積極的に企業を訪問して声を聞き、関係機関とも連携してきめ細かに対応してほしい。	30ページに記載の(仮)中小企業サポートセンターが様々な取組の重要な核となると考えています。目標を決めて積極的に企業訪問するとともに、各施策についても具体的な取組目標を立てるなど、センターが機能するような運営方法を検討します。
戦略策定後も企業訪問をして多くの意見を聞いてほしい。どれくらい企業を回ることができるのか運動量が大事。具体的な目標を決めて進めてほしい。	
サポートセンターを独立した組織にすることもひとつの手である。	まずは市の産業担当課と商工会議所の独立した組織が協働し、市の委託を受けた専門機関の協力も得ながら産業支援を行う形からスタートし、新たな組織の設立については今後の検討課題としたいと考えています。
サポートセンターの長は誰になるのか。市と商工会議所という2つの組織で構成されるのであれば、円滑に協力して進められるようにしてほしい。	また、市と商工会議所、専門機関が協調及び役割分担をして支援を進めることができるよう毎週、運営に関する連絡調整会議を行うなど運営方法を工夫します。また、対外的にも一体的に取り組んでいることが分かるよう情報発信等に努めます。
サポートセンターの責任の所在があいまい。トップに民間人を入れてはどうか。	
共通の名刺やロゴをつくるなど対外的にも市や商工会議所が協働してやることが見えるようにしてほしい。	
サポートセンターの人材育成も大事。	職員が外部の講演会やセミナーへ参加する機会をつくるとともに、市内の経営者や有識者を講師とした勉強会の開催等を検討します。

2. 産業振興センターの活用等について

ご意見等	対応案
サポートセンター内などにシェアオフィス等の人が集まる機能があってもよいのではないか。	37ページに記載のとおり、産業振興センターや産業会館等を活用して、起業やオープンイノベーションの拠点整備を検討します。
過疎地でもベンチャー企業を集めているところもある。宇治市では起業家を中心とした交流会を開催しており、それらも活用して産業振興センターの活用を考えてほしい。	

空き家を活用して飲食業等を起業する人へのマッチングができないか。	現在策定中の宇治市空き家等対策計画において空き家の所有者と利用希望者をマッチングさせる空き家バンクの創設が検討されているところであり、こうした情報をセンターで活用することを検討します。
----------------------------------	--

3. 観光やブランド、情報発信等について

ご意見等	対応案
観光は総合産業であり、宇治市産業戦略においても重要である。	28 ページの「産業分野ごとの目指す姿」において、産業戦略における観光の果たすべき役割を補記しました。
宇治市の名前は全国的に有名であり、宇治のブランドを前面に押し出すべき。	32 ページの「市内産業の情報発信」の取組として、観光施策の実施をはじめ様々な機会を通じた宇治市ブランドの発信を考えているところであり、力を入れていきたいと考えています。
情報発信では多言語対応をしてほしい。また、生産プロセスや歴史的な背景、環境への配慮などを含めて発信することが付加価値の増加につながる。	32 ページの「市内産業の情報発信」の取組であるオープンファクトリーやパンフレット、ウェブ等では企業や商品の様々な側面を工夫して発信するとともに、可能な限り多言語に対応していきたいと考えています。
奨励作物だけでなく加工品など他の商品も情報発信すべきではないか。	32 ページの「市内産業の情報発信」において、企業情報や奨励作物だけでなく、市内で製造や販売がされている商品の情報発信に努めます。
体験や工場見学などにより市内の回遊性を高め、お茶の知識を深めてもらうことができないか。	33 ページの「観光施策の実施」において、観光振興計画とも連携しながら、宇治茶をより深く知っていただく取組を進めます。
グローバル化の視点がないのではないか。販路開拓や人材確保等で盛り込んではどうか。	35 ページの「商工会議所と連携した販路拡大の促進」において、宇治商工会議所主催の海外での物産展等に補助をします。また、その他の海外販路開拓ルートを検討するとともに、展示会や産学連携、観光等を通じて海外への市内産業に関する情報発信に努めます。

4．人材、雇用について

ご意見等	対応案
大企業へ雇用が流れている現状を認識し、まずは親世代に地元企業のことを知ってもらうべき。	36ページの「雇用の確保」において、オープンファクトリーや企業紹介パンフレット等を活用して地元企業の情報発信に努めます。また、パンフレットを小中学生へ配布することや、宇治市のことを学ぶ授業「宇治学」などにおいて地元企業のことを知ってもらう機会を検討します。
地元の人や小中学生にも地元企業を知ってもらうことが大事。	
人材不足は建設業などで深刻な状況。障害者の雇用につなげるなど検討してほしい。	36ページの「雇用の確保」において、多様な雇用の拡大に向けて、セミナー等を通じた情報提供を行います。

5．企業誘致等について

ご意見等	対応案
ベンチャー工場の卒業企業が市内に定着していないことにどのように対応するのか。	入居年数（上限7年）の柔軟化、早期卒業企業への家賃補助等、定着対策を検討します。
企業誘致を慎重にする必要はない。誘致対象は情報系や研究開発などの部門になるのではないかと。	38ページの「新たな担い手の確保」において、宇治市の特徴や経済構造の変化、企業側のニーズ等を踏まえた上で、誘致対象を検討します。
誘致していくことを明確にした方がよい。誘致はニッチ分野で競争力の高い企業や付加価値の高い企業になる。	

6．開発手続き等について

ご意見等	対応案
開発担当部署から土地の異動情報を日頃から入手しておけば、事業用地の確保の役に立つのではないかと。	開発担当部署との情報交換、企業訪問、連携協定を締結している金融機関等を通じて、用地情報の取得や提供に努めます。
工場を拡張したいが下水道の整備が数年先という場合に先に整備するなどできないかと。	(仮)中小企業サポートセンターにおいて、個々の企業のニーズを聞きながら関係部署との調整をします。

7．産業戦略の進め方について

ご意見等	対応案
短中長期的なこと、自前・他者でできることなど整理して進めてほしい。	各施策のスケジュールや取組の目標を設定し、別紙にまとめました。
時間軸で見たときのロードマップをつくってほしい。	